

### 3章 名詞節

#### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

科学の研究方法は、結局、観察に基づいた事実の尊重に根ざしている。他の科学者が同じ研究や実験を繰り返すことができるように、おそらくは同じ観察ができるように、どんな方法で、どこで、どんな状況下で観察を行ったかを、科学者はできるだけ正確に記述する。

B.

#### 全訳

仕事をしている時でさえ、自分の赤ちゃんを身近においておけることから得られる安心感は、驚いた隣人のいかなる凝視や含み笑いをも補って余りあると確信して、私はこの日本特有な慣習を、現代アメリカの風景の中になじませようと決心していた。

私と私の子供がひもでつながられている光景を見て、隣人は笑うどころか、おんぶの生理学的かつ心理学的効果に感心したのであった。隣人の中には、私をまねする人さえもできて、背中に赤ちゃんをおんぶして皿洗いをしたり、芝刈りをする人もすぐに見かけるようになった。

近所の人たちが集まる親睦の場で、ある時、以前心理学を専攻していたある主婦が、現代における人間のスキンシップの必要性における解決策として、おんぶを説いたり、またある主婦は、背中に背負った子供に対してどれほど親近感を持つかということ、うれしそうに語ったりしていた。

#### 【2】

#### 解答

- (1) how
- (2) 「全訳」の下線部⑤参照。
- (3) ㉞ supposing [when] ㉟ whether
- (4) 「全訳」の下線部④参照。
- (5) being urged
- (6) why not look forward to it
- (7) 何かを夢中になってする (11 字)  
**別解** 趣味を始め、旅行をし、新たな経験をする (19 字)
- (8) mind ; body

#### 解説

- (1) the way = ① how ② as
- (2) Don't ... で始まっているのを見て、すぐに命令文だと考えてはいけない。Doesn't

she look beautiful! 「彼女, すごくきれいね!」 (= She looks really beautiful.) のような感嘆文と同様, Policemen look really young. を感嘆文にしたものである。

- (3) ifには大別して, ①「もし…なら」という意味の副詞節を導く (= supposing, etc.), ②「…かどうか」という意味の名詞節を導く (= whether) の2つの用法がある。(ただし, whetherにも, ②「…かどうか」という意味の名詞節, ③「…であろうがなかろうが」という意味の副詞節, の2つの用法がある) 下線部㉔のifは, ①の意味で用いられているので, 解答はsupposing (ℓ. 22)となる。また, 接続詞のwhen (…の時)を用いても, この場合意味はほぼ同じである。下線部①のifは, ②の意味で用いられているので, whetherが正解となる。(ただし, 本文中のwhether (ℓ. 5)は③の意味で使われていることに注意)
- (4) ○ the chances are that … = it is likely that …  
○ as it is more polite to … : asは, 目的格の関係代名詞。ここでは, 前述の senior citizen という語を受けた関係代名詞としての用法。
- (5) 進行形の受動態 (be being done) の文にする。
- (6) Why don't you make it fun? は英語として間違っているわけではないが, さらに簡潔な Why not …? のほうがここではよりよい。
- (7) get involved (夢中になる) という成句を知っていれば, その知識に基づいた一般論的な答が書ける。また, get involved という成句を知らない場合, あるいは, 知っていても文脈に則した答えを書きたい場合には, 下線部を含む文 (you also have to …) と, その直後の文 (You have to …) の類似性に着目して, 直後の文に基づいた具体的な答えを書く。
- (8) 下線部を含む文では, if ~, then … (もし~なら, …) という相関接続表現が用いられているので, 内容的な相関関係があると考え。そのthen以降には, both your mental and physical powers will … とあるので, それが下線部の your ( ) and ( ) と対応するものと考え。mentalはmindの形容詞形, physicalはbodyの(外来)形容詞形ということに気付けば, 答えは得られる。

#### 全訳

イギリス人にはちょっと変わったところがある。警官に関する話しぶりがその例だ。時にこんなことを言う。「時間を知らなかったら, 警官に聞きなさい」また, こう言う時もある。「⑥警官ってすごく若く見えるね!」その言わんとするところは, もし警官を見かけて彼が若いと思ったら, あなた自身が年を取っているということだ。それは, まったくもって奇妙で, いかにも英国的発想だが, 高齢化というのは, 世界中どこでも人生の一部である。好むと好まざるとにかかわらず, 私たちは皆年を取っていくのであって, ④まず間違いなく, やがては私たちも年老いた年金受給者, すなわち最近のより上品な言い方をすれば, senior citizen (高齢者)になるであろう。

西欧の先進工業国は, 世界のどの社会よりも高齢化しつつある。次の世紀 (21世紀) には, 社会における老人の数も, 全人口における老人の割合も, 劇的に増え始める。アメリカ, 日本, イギリス並びに他の西欧諸国は, 同じ傾向を経験するであろう。すなわち, 高齢化社会を迎えるのだ。各国政府は, 財政的影響にいささか頭を抱えている。すなわち, 年金や医療費に払う

金はどこからくるのか？ どこでも人々は貯蓄して老後の金を確保するのに必死である。

だが、老齢は問題として見る必要はない。なぜそれを楽しみにしないのか？ その答えはおそらく、人は思慮分別が必要だということであろう。適切な食事と適度の運動、そしてもちろん煙草は吸わない、という健全な生活を送る。しかし、一高齢者として、何かに夢中になる必要もある。趣味を始め、旅行をし、新たな経験をしなければならない。老齢に対するこういった積極的な姿勢を要約し、かつこの問題の専門家によって使われているスローガンは、Use it, or lose it! (使わないと失いますよ！) である。つまり、絶えず頭と体を使っていないと、体力も知力も衰え始めるということだ。頭や体によいことを全部やれば、高齢者であるというのは、人生の黄金期となり得る。それによる恩恵を考えてごらん下さい。時間通りに会社に行く必要もないし、混んだ通勤電車に乗る必要もないし、望む時に休暇に出かけられるのだ。

今はおそらく、老齢についてあまり思い悩む必要はないだろう。だが、いつそれについて思い悩むことになるかはわかりだろう。前に述べたイギリス式テストを使って、今度見かける警官が老けて見えるか、若く見えるか、試してみなさい。

**注** .....

ℓ. 7 ◇ pensioners < pension 「年金；恩給」

ℓ. 16 ◇ sensible ≡ wise

ℓ. 17 ◇ diet = 「①飲食物；食べ物 ②制限食 ③国会」

e.g. National Diet Library (国立国会図書館)

※英語の diet には日本語の「ダイエット」の「減量；やせること」の意味はない。

ℓ. 19 ◇ take up ~ = begin to spend time doing ~ ; interest oneself in ~

Ex. Jane has just taken up playing the guitar.

(ジェーンはちょうどギターを始めたところだ。)

Nancy took up acting when she was at college.

(ナンシーは大学在学中に演技に興味を持ち始めた。)

**[3]**

**解答** .....

I. A strangely formed jawbone discovered in France may be evidence that prehistoric people kept pets.

- This 6,000-year-old bear jaw was found by workmen digging near Grenoble, France.
- Louis Chaix, an archeozoologist at the Museum of Natural History in Geneva, examined the jawbone/jaw / bone.

II. The strange indentation between its molar teeth suggests that humans once held the brown bear captive with a cord that was tied around its lower jaw.

- The animal was just a few months old when the cord was tied around its jaw.
- The bones of animals are softer when they are young and still growing.
- The cord would have caused such an abnormal shaping of the jaw.

- III. Why they may have kept the bear is a mystery.
- At the time, the people of the region were hunter gatherers.
  - They lived by picking wild fruits and nuts, and hunting wild pigs and red deer with spears.
  - Since the bear was only seven years old or less when it died, it may have been killed in a ritual sacrifice.
  - Some other cultures have sacrificed bears:
    - Examples:
      - Medieval people in Sweden
      - The Ainu of the island of Sakhalin
- IV. The discovery suggests a new type of interaction between humans and animals in this early period.
- The other relationships known for this period are just hunting.
  - There may have been some religious relationships between man and animals.
- V. The discovery of the bear jaw may show that early humans not only killed animals for food and clothing, but also captured them for other purposes.
- Scientists must depend on physical evidence which they interpret from already known facts about early periods.
  - Early hunter-gatherers may have taken young wolves into their camps between eight to ten thousand years ago.
    - Reasons:
      - As playmates for children
      - As guards
      - As hunting assistants
    - This is believed to have been the beginning of the modern domesticated dog.

**Script** |

**CD 2**

Prehistoric Pets

Did prehistoric people keep pets? A strangely formed bone discovered in France may be evidence that they did. This bear jaw was found by workmen digging near Grenoble, France. Suspecting that it was very old, they sent it to the Museum of Natural History in Geneva, Switzerland. Louis Chaix, an archeozoologist at the museum, examined the jaw and

5 determined it to be 6,000 years old.

When Chaix first saw the jaw, he was impressed by the strange indentation between its molar teeth. The groove in the jaw forcing the two teeth to bend in toward each other suggests that humans once held the brown bear captive with a leather cord that was tied around its lower jaw when the animal was just a few months old. Since the bones of  
10 animals are softer when they are young and still growing, the cord tied around the jaw would have caused such an abnormal shaping of the jaw.

Why they may have kept the bear is a mystery. At the time, the people of the region where the bear jaw was found were hunter-gatherers. They lived by picking wild fruits and nuts, and hunting wild pigs and red deer with spears. Since the bear was only seven  
15 years old or less when it died, Chaix thinks that it may have been killed in a ritual sacrifice, perhaps one similar to those of medieval people in Sweden or the Ainu of the island of Sakhalin.

According to Chaix, the discovery suggests a new type of interaction between humans and animals in this early period. “The other relationships that I know for this period are  
20 just predatory, just hunting,” he says. “And this suggests that there were perhaps some religious relationships between man and animals during this old time.”

It is thought that early hunter-gatherers took young wolves into their camps between eight to ten thousand years ago as playmates for children, and later as guards and hunting assistants. This is widely believed to have been the beginning of the modern domesticated  
25 dog. However, since there are no written records of these early periods of human experience, scientists must depend on physical evidence such as bones and manmade objects, which they interpret from already known facts about the era. The discovery of the bear jaw seems to be strong evidence that early humans not only killed animals for food and clothing, but also captured them for other purposes. [404 words]

全訳

### 先史時代のペット

先史時代の人々はペットを飼っていただろうか？ フランスで見つかった奇妙な形の骨は、彼

らがペットを飼っていた証拠であるかもしれない。この熊のあごは、フランスのグルノーブルの近くを掘っていた作業員らによって発見された。非常に古いものに思われたので、彼らはスイスのジュネーブにある自然誌博物館にそれを送った。博物館の古代動物学者である Louis Chaix はそのあごを調べ、6千年前のものと断定した。

最初にそのあごを見たとき、Chaix は臼歯の間の奇妙なへこみに深く印象づけられた。二本の歯を互いのほうへと傾けさせているあごの溝は、人間がかつてその熊を皮ひもにつないで飼っていたことを示唆している。皮ひもは、熊が生まれてまだ数ヶ月のときに、下あごのまわりにつけられた。動物の骨は子どもでまだ成長中のときはもっと柔らかいので、あごのまわりにつけられたひもにより、そのような正常でない形のあごを生じさせたのだろう。

なぜ彼らが熊を飼っていたのかは謎である。熊のあごが見つかった地域の人々は当時、狩猟採集民であった。彼らは野生の果物や木の実を採り、槍で野豚や赤鹿を捕まえて生活していた。その熊は、わずか7歳かそれ以前に死んでいるので、Chaix は、それが、中世のスウェーデンの人々、あるいはサハリン島のアイヌの人々の儀式に似た儀式的な生贄のために殺されたのかもしれないと考えている。

Chaix によれば、この発見は、早い時期の人間と動物の関わりについて、知られていなかった種類のものがあることを示唆しているという。「この時期について、私の知っている他の種類の関係とは、単に動物を捕まえて食べることで、狩猟だけです」と彼はいう。「この発見は、この古い時代に、人と動物の間に、おそらく何らかの宗教的な関係性があったことを示唆しています。」

8000年から1万年前、初期の狩猟採集民は、小さな狼を自分たちの住みかに連れてきて、子どもたちの遊び相手にし、大きくなったら警備係や狩の補佐にしたと考えられている。これが、現代のペットとしての犬の始まりだったと広く信じられている。しかし、こうした早い時期の人間の経験については記録がないため、科学者たちは、骨や、人工物などの物的証拠に頼らざるを得ない。それらを、その時代に関してすでに知られている事実から解釈するわけである。この熊のあごの発見は、初期の人類が、動物を食べ物や衣服のために殺していただけでなく、他の目的のために捕まえてもいたということの強力な証拠であるように思われる。

#### 【4】

##### ポイント

2語以上がまとまって1つの名詞や形容詞や副詞のように働くものを「句」と言う。さらにSVを含んだまとまりが1つの名詞や形容詞や副詞のように働くものを「節」と言う。ここでは句と節の働きを確認していこう。

##### 解答・解説

A.

(1) of their departure がtime という名詞を修飾する形容詞句を作る。the time of their departure が全体として1つの名詞となる名詞句を作る。

「彼らの出発時間がわかりません。」

(2) without a mobile phone がlive という動詞を修飾する副詞句を作る。a mobile phone が名詞句を作る。

「私たちは携帯電話なしでは生きられません。」

(3) standing at the gate が boy という名詞を修飾する形容詞句を作る。at the gate は standing を修飾する副詞句となる。または, the boy standing at the gate が名詞句を作る。「門のところに立っている少年を知っていますか。」

(4) explaining it again が主語 (形式主語 [仮主語] it を受ける実質主語 [真主語]) になる名詞句を作る。

「繰り返し説明するのは無駄だ。」

○ It is no use ... ing 「…しても無駄である」

B.

(1) that wrote this book が lady を修飾する形容詞節を作る。

that は関係代名詞 who の意味。「この本を書いた女性は大変有名な女優です。」

(2) when my father will come back again が直接目的語となる名詞節を作る。

when は疑問副詞。「父が次にいつ戻ってくるかはわかりません。」

(3) when you come next time が give を修飾する副詞節を作る。

when は接続詞。「今度来たときにこの本をあなたにあげましょう。」

(4) when I saw her the first time が moment を修飾する形容詞節を作る。

when は関係副詞。「私は彼女と初めて会った瞬間を未だに覚えています。」

## 【5】

### ポイント

主語になる名詞節のパターンを確認していこう。

### 解答・解説

(1) That

「彼がそう言ったというのは本当だ。」

That he said so が名詞節で is の主語となる。

(2) Whether

「あなたが上手くいくかどうかは自身の努力による。」

Whether ... or not が depends の主語となる名詞節を作る。

(3) How

「あなたが何歳かということは何歳に感じているかということほど大切ではない。」

How old you are と how old you feel が共に名詞節を作っている。

(4) What

「彼が言ったことが彼女を怒らせた。」

What he said が made の主語となる名詞節を作る。

(5) Why

「イーサンがその時どうして笑ったのかは明白です。」

Why Ethan laughed then が is の主語となる名詞節を作る。

## 【6】

### ポイント

整序英作文を通じて、目的語となる名詞節を見ていこう。名詞節なので「～ということ」と訳するのが基本である。副詞節との違いについても気をつけておこう。

### 解答・解説

- (1) I'll see to it that it never happens again.
- see to A 「A に注意する；気をつける」の A を形式主語 it と実質主語 that 節に直した形が、see to it that S V 「S が V であるよう注意する；確認しておく」である。
- (2) I want to know what dieting girls actually eat.
- what S eat が名詞節となり「S が何を食べるかということ」という意味になる。‘間接疑問’とも言われるが、これは‘疑問詞が導く名詞節’のこと。
- (3) The researcher asked the students what posture they liked when sleeping.
- ‘what + 名詞 + S + V’ が「S がどんな名詞を V するかということ」等の意味になる名詞節を作る。この what は疑問形容詞「どんな～」であり(2)と同じく間接疑問と呼んでもよい。
  - posture 「姿勢」
- (4) I think it a great pity that traditional arts are disappearing.
- it が形式目的語であり、that 節が実質目的語となる名詞節である。[SVOCO']
  - O = it, C = a great pity であるので、O is C と考えると、“It is a great pity that S V.” 「S が V なのは極めて残念です」という文が内在していると考えてもよい。
- (5) You are responsible not only for what you say but also for what you do not say.
- what you say と what you do not say がいずれも名詞節である。
  - not only A but also B 「A だけでなく B もまた」  
be responsible for A 「A に対して責任を負う；A の原因となる」
- (6) I was always surprised at how quickly my father could fix a clock.
- how quickly 以下が名詞節となり、前置詞 at の目的語の働きをしている。
  - how quickly my father could fix a clock で「父がなんて素早く時計を修理できたかということ」が直訳。
- (7) It seems to be taken for granted that Japanese people take everything at face value.
- take it for granted that S V 「SV を当然と思う」it は形式目的語で that 節が実質目的語の形。これを受動態にすると、It is taken for granted that S V となる。
  - at face value 「額面通りに」

### 今日の一言

A man cannot give what he hasn't got.

「ない袖は振れぬ。」

what he hasn't got が名詞節を作る。

「持っていないものを与えることは出来ない」が直訳になる。背伸びしても実力は上がらない。毎回学習した知識をしっかりと手に入れることで、試験においても答案として与えることが出来るようになるはずだ。





## 添削課題

### 全訳

①決心するのが最も難しいことの1つは、自由とは何にあるのかということについてである。私はかつて、遺産を相続した女性に会ったことがあるが、彼女は財産を処分してしまうまでは決して自由になれないだろう、と言っていた。彼女が主張しているように、人は財産によって奴隷になってしまい、財産の主人ではなく召使になってしまう、ということである。そして自由を取り戻す唯一の希望は、何とかして財産から自由になり、ソローやインドの聖者のように、ものを持たない生活をする事だ、というのであった。②私はかつてソローを非常に愛していたけれども、白状するとお金を束縛の原因と考えたことは一度もない。常に、ポケットに1シリングしかない時よりも1ポンド持っている時の方が、より自由を感じてきた。バスの代わりにタクシーに乗ることができるということは、私にとっては望ましい自由の部類に入る。

### 解説

①

ℓ. 1 ◇ One of the most difficult things to make up our minds about 「決心するのが最も難しいことのうちの1つ」

○ to make up our minds about : 形容詞用法の不定詞句。修飾される語が不定詞句の中の前置詞の目的語となっている形。

= One of the most difficult things which we make up our minds about

○ make up one's mind about ~ 「~について決心する」

◇ in what freedom consists 「自由は何にあるのか」

cf. consist in ~ 「~にある」 (= lie in)

consist of ~ 「~から成り立つ」

ℓ. 2 ◇ I once met a woman who, having been left with a fortune, said that she would never feel free till she had got rid of her property.

○ 挿入部分 having ~ fortune は、付帯状況を表す分詞構文。

○ get rid of ~ 「~を処分する」

○ property 「財産；所有物」

②

ℓ. 6 ◇ Much as I once loved Thoreau 「かつてソローを非常に愛していたが」

○ ‘形容詞・副詞など + as [though] + S V’ で譲歩を表す用法。

= Though I once loved Thoreau much

ℓ. 7 ◇ look on A as B 「AをBと見なす」

◇ enslavement 「奴隷にすること」

E2JS/E2J  
高2 選抜東大英語  
高2 東大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製